

倉敷市立高等学校体制整備基本計画（令和3～6年度） （令和4年度公表分）

倉敷市教育委員会

1 計画策定の趣旨

この計画は、令和2年6月に倉敷市立高等学校教育体制等検討委員会から提出された最終提言に基づき、市立高等学校教育体制の整備を進めるに当たっての基本的な考え方とその方針を示すものです。

2 市立高等学校の現状

- 社会情勢の変化や少子化の影響により、倉敷市立高等学校の総生徒数が減少しています。昭和51年に1,681人であった総生徒数は、令和4年度には565人と約1,110人減少しています。特に夜間部の生徒数の減少が顕著であり、学科によっては1学年10人以下の状況も見られます。今後の中学校卒業者の減少、また県立高等学校全日制課程や私立高等学校への進学希望を考慮すると、定時制高等学校に入学する生徒数の減少が進むものと予想されます。
- こうした学校の小規模化により、本来培われるべき豊かな人間性・社会性など、集団生活を通して得られる教育効果を十分に得られなくなることが危惧されます。
- また、定時制高等学校に通学する生徒は、かつては多くが正規社員として働きながら学ぶ生徒たちでありましたが、産業構造の変化等により、倉敷市立高等学校に通学する生徒の中で正規社員として働く者は現在ほとんどいない状態となっています。その反面、小・中学校の時に不登校を経験した生徒など、多様な学習経歴の生徒が多く入学していることから、倉敷市立高等学校の役割は大きく変化してきています。
- 一方、市立高等学校の多くの校舎等の老朽化が進んでおり、一部の校舎・屋内運動場を除いて、耐震化が完了していない状況です。地域や生徒・保護者にとって魅力ある教育活動を行うためには、普通教室及び実習室や家庭科教室等をはじめとする特別教室も、設備の更新や充実が望まれます。特に校舎・屋内運動場の耐震化は急務であり、今後速やかに対応していく必要があります。
- また、現在、市立高等学校の校舎等として活用するため、閉校した小学校の校舎等の改修を進めています。
- 今後、市立高等学校が地域の要請に応え、多様な生徒の実態に応じた後期中等教育の場として位置付けられるためには、学校規模の適正化と教育内容の充実を目指すことが喫緊の課題となっています。

3 魅力ある高等学校教育の実現にむけた方策

将来は地元に着し、貢献できる人材の育成に向けて、地域や生徒、保護者にとって魅力があり、学びたいと思える学校づくりを進めていくために、以下の取組を検討します。

（1）学科の在り方や昼夜、修業年限等の整備

- ・ 生徒一人一人が自己の適性や進路選択に向けて主体的に学習できるよう、多くの選択肢を用意した上で、生徒や保護者のニーズに応えられるよう、今後の在り方を検討

(2) 基礎・基本の定着

- 多様な学習ニーズに応じてより一層きめ細かく対応していくことができるよう、令和3年度に配備した1人1台端末等のICT環境を活用した効果的な指導方法等の検討
- 早期に生徒のつまずきに気づき、学力の確実な定着のために、効果的な少人数授業の手法等を生かした授業の実施

(3) 基本的な生活習慣の定着

- 生徒が社会的自立を果たすために、教職員が家庭とも連携を図りながら、細かい生活習慣の乱れを見逃さず丁寧に声かけをしていくことができる指導体制の確立

(4) 社会性の育成

- ソーシャルスキルトレーニング等に取り組むことによる、学校教育活動全体での社会性の育成
- 市内の各地域の文化・産業等の特色を生かし、探究的に学びを深める「地域学」等を教育活動に導入

(5) 特別な支援が必要な生徒への指導の充実

- 授業のユニバーサルデザイン化による、「わかりやすい」授業の推進
- 特別な支援を要する生徒には、外部の専門機関等との連携を図り、本人の困り感に共感しつつ、学習活動をスムーズに展開するための教育環境の整備

(6) 進路保障

- 地元で貢献できる有為な社会人の育成に向けたキャリア教育の充実
- 早期の職業教育やインターンシップ等の就業体験による生徒の就業意識の醸成

4 学校規模の適正化と教育内容の充実について

少子化に伴う市内の中学校卒業生の減少や、私立高等学校の新設等から、市立高等学校への志願者が減少することが想定されますが、不登校生徒数が増加傾向にあることや、コロナ禍や物価上昇による社会・経済状況の悪化に伴う進路への影響等も踏まえつつ、学校規模の適正化に向けた再編・整備を進める必要があります。

また、基礎・基本の定着を図りながら、生徒一人一人のニーズに柔軟に応える新たな役割をもつ高等学校として、教育内容の充実を図る必要があります。

こうした取組をもとに、ふるさと倉敷を誇りに思い、このまちの未来を力強く担う人材の育成を進めてまいります。このような観点から、市立高等学校における今後の方向性については、次のとおりとします。

精思高等学校	商業科を令和6年度から募集停止とし、令和8年度末に廃止します。
精思高等学校 連島分校（仮称）	霞丘小学校跡地へ令和6年度から開校し、設置学科を普通科（昼）、商業科（昼）とします。
精思・玉島高等学校 学校統合校	霞丘小学校跡地への令和9年度からの開校に向け、設置学科を検討します。
倉敷翔南高等学校	現在の総合学科内の4系列（教養・情報ビジネス・アパレルファッション・生活福祉）に、近年の保育需要に鑑み、保育に関連した教育内容の追加について、市立短期大学との連携も視野に入れながら検討します。
工業高等学校	工業系高等学校の社会的なニーズを踏まえつつ、入試等における今後の志願状況を注視し、適正な在り方を検討します。
真備陵南高等学校	入試等における今後の志願状況を注視し、適正な在り方を検討します。